

大谷學報

第十卷 第一號

昭和五年三月五日發行

淨土莊嚴の原理

曾我量深(一)

報身佛の歴史的研究

西尾京雄(四)

親鸞の入信期に就て

安井廣度(七)

朱子の性理論

青木晦藏(九)

Lokāyata に關する研究

龍山章眞(二四)

我祭祖俗の起原に關する一考察

芦原慧明(二六)

研究室彙報新刊紹介

大谷大學

大谷學會

大谷學會々則

第一條 本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學内ニ

置ク。

第二條 本會ハ佛教學、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル

諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條 本會ノ會員ハ大谷大學教職員、學生及ビ本會ノ

趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス。

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ。

一、年四回雜誌『大谷學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ

頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

三、隨時圖書ヲ出版ス。

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

一、會長 一名

二、理事 二名

三、委員 若干名

第六條 役員ノ職責左ノ如シ。

一、會長本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補佐ス。

三、委員ハ庶務、編纂、會計ノ事務ヲ分擔ス

第七條 役員ノ任期左ノ如シ。

一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

二、理事ハ大谷大學々部長並ニ大谷大學主事ヲ

以テ任ズ。

三、委員ハ會長ノ指名トシ、任期ハ二年トス。

第八條 會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會主催ノ

會合ニ出席スルコトヲ得。

第九條 會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノト

ス。

第九條 本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更ス

ルコトヲ得ズ。

附則 一、本會ハ佛教研究會ヲ繼承ス。

二、本會ハ本學ニ於ケル佛教學、哲學、人文學各

研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

大谷學會職員

會長 稻葉 昌丸

理事 稻葉 圓成 藤岡 了淳

庶務委員 安藤 州一 大河内了悟 瀧 含雄

山邊 習學 北原 繁麿

編纂委員 上杉 慧岳 梶浦 眞了 能勢 朝次

橋川 正 福井 元澄 岸 章二

中島 智圓 北畠 顯夫

會計委員 加藤 智學 大須賀秀道 岡山 操

前號持輯號目次 (昭和四年十二月發行)

中世の研究

心敬僧部の藝術境

能勢 朝次(一)

怨親平等の思想

橋川 正(四〇)

鎮西島津庄、その成立・増大・住入・並に傳頌

德重 淺吉(五)

元の征東行省に就きて

一(二五)

カール大帝時代の文化とその特徴

菅原 憲(二六〇)

原始眞宗に於ける荒木門徒の研究

日中 無倫(二七)

末法思想を動因とせる謙倉時代の展開

藤島 達朗(二二〇)

東波居士のことども

本田 成之(三三五)

唐蕃會盟碑の柘本所藏について

寺本 婉雅(三三三)

大谷學會彙報研究室彙報

新刊 紹介

大谷學報第十卷總目錄

(二三五)
(二三八)

大谷學報 年四回(一月、四月、七月、十月) 發行

會費 年額 金參圓(但前金送料共)

一部買定價 普通號 金壹圓(送料四錢) 特輯號 隨宜申シ受ク(送料四錢)

廣告 一頁 金貳拾圓 半頁 金拾貳圓

第十一卷・第一號

昭和五年三月一日印刷
昭和五年三月五日發行

不許複製轉載

編輯者

大谷

學會

印刷者

須磨

兵衛

印刷所

大谷大學出版部

發行所

京都市島丸内

大谷學會

電話 四九四七番
電報 四九四七番

大谷大學學長 稻葉昌丸 著



菊版洋裝天金
四百三十五頁
定價金四圓
送料廿七錢

▲本書は尤も完全なる蓮如上人御一代の言行實録である。

▲附録の「御一代聞書類の研究」及び「索引」は著者が多年苦心の結晶にして精確詳密の點に於ては蓋し古今稀に見るものである。

▲今や宗團多難の秋、本書の持つ意義は更に重大と云はねばならぬ。

本書内容要目

一、空善記(附、御兄弟中申定條々) 二、蓮淳記 三、實悟舊記 四、實悟記(仰條々聞書及御一期記拔萃) 五、本願寺作法之次第(附、山科御坊事並其時之事) 六、昔物語記 七、榮玄記八、系圖(日野一流系圖、大谷一流系圖、下間家系圖) 九、附録蓮如上人御一代聞書類の研究、十、索引

發行所 振興大坂市 五七六番頭 大谷大學出版部